

大事件 女子医大 東京女子大 死亡 東女

心肺方式手術中に変更

チーム全体に伝わらず

東京女子医大病院(東京・新宿)で小学六年の平柳明香さん(当時12)が手術ミスで死亡した事件で、人工心肺の担当医だった佐藤一樹容疑者(38)が手術中に人工心肺装置の作動方式を変更したのに、ほかの手術スタッフが正確に把握していなかったことが二十九日、警視庁捜査一課などの調べで分かった。

瀬尾 看護記録改ざん強要

調べによると、手術は当初、人工心肺の作動方式をサイホンの原理を利用する「落差脱血法」としていたが、手術途中で佐藤容疑者が、吸引ポンプを使う「陰圧吸引補助脱血法」に変更した。同病院が出した調査報告書によると、佐藤容疑者は作動方法を変えた際、手術をやりやすいようにポンプの回転数を通常の二・五倍に設定。ポンプが血液とともに空気が連続して吸引する事態になり、圧力異常などの不具合が発生、血液が循環しなくなった。トラブル発生で佐藤、瀬尾両容疑者はパニックに陥り、臨床工学技士が弁を開放して圧力を正常に戻すまでの間、明香さんの脳に血液が循環せず、脳障害を引き起こしたという。

同病院にはこのようなトラブルに対処するマニュアルがなく、同課はスタッフ間の意思確認の不徹底と、病院側の危機管理の不備が事件の背景にあるという。

あったとみている。

一方、証拠隠滅の疑いで逮捕された瀬尾容疑者は、手術後、看護記録などの改ざんを、看護師長や臨床工学技士に執拗に迫っていた。明香さんの実際の死因の脳障害を隠すため、死亡時の瞳孔の大きさを七ミリから四ミリと書き換えさせたなどの疑いが持たれている。調べに対し、瀬尾容疑者は、「改ざんを指示したのは事実だが、自分ではやっていない」と供述しているという。

女子医大小児心臓手術事故
佐藤医師人工心肺操作変更
2002年6月29日 日経新聞